

環境経営論 2005年度個別感想集

平成17年8月1日PM
東京外国語大学 担当講師 小野木正人

1. 一番印象的だったこと

- 日本の環境問題への意識は高いが、具体的行動が伴っていないこと。
- 心理学のエゴグラム。(2) 自分が知らなかった自分の一面に気づいた。
- ISO14001 は目標ではなく、スタート地点であるということ。
- ドイツと日本の意識の違い。(3) 日本は利益優先の姿勢が強い。
- 学校でもISOを取得しているところがあるということ。
- ヨーロッパの環境を汚染していたイギリスが、環境マネジメント国際規格のもとになったことに驚いた。
- ISOは資格ではなく、規格だったということ。
- 5つの基礎能力について。アウトプットの重要性を再認識した。
- グリーンコンシューマーについて。(2)
- 環境問題は、経済とも関わるので、両方のバランスをとりつつそれにふさわしい制度を立ち上げるのは非常に難しいと思った。

2. 得たもの、気づき

- 今まで名前だけしか知らなかったISOについて知ることができてよかった。(6)
- 日本が環境問題に具体的行動がとれないのは、極めて身近なレベルで環境被害を受けていないからではないか。痛い目にあわないと、積極的行動は起こらない。
- ISO14001 は思っていた以上に役立ちそうだ。
- 日本では当たり前だと思っていることも、海外と比べると様々な改善点が見えてくる。
- ISO14001 やISO9001 は、環境の改善だけでなく企業の体質改善にもつながると思う。
- 環境問題の取組みには、人々の意識だけでなく制度を整えることも大切だということ。
- ディスカッションを通じて、自分の意見を相手に伝える難しさを感じた。

3. その他の感想

- 外大生協がISO取得に難色を示したのは、継続の困難性(専門の人がいないとけいぞくしづらい)だとわかった。
- ISOだけでなく、エゴグラムやコミュニケーション法の話も面白かった。(6)
- 環境と心理分析の意外な結びつきが面白かった。
- 社会は人の群れで作られているから、急にドイツのようにはなれない。人々の考えから変える事が大切だ。